

● “起業、わからないことは武器だ” 皿がとんでも家族は大事

堤：今考えたら、本当私達の場合は、わからないからできたんだなっていうのはすごく思いますね。ある種、わからないから可能性がある。保育業界で言えば、赤ちゃんなんて、わからないからどんどん成長するんですよね。もう今我々だったらいろんなこと考えて、進まないじゃないですか。赤ちゃんって黙っていてもいろんなものを見て真似をしているんですよね。多分、小鳥を見たらバタバタしているんですけど、本人飛んでいるつもりなんですよ。だからどんどんできるようになる。私、起業を今から目指す方に伝えたいのは、“わからないことは武器だ”ということです。

宮本：なるほど。今のクロージング出来ましたね。

堤：それはもう常に思いますね。

下手にいろいろしちゃうと怖くなってできませんよ、今同じことをやれ、って言われて私できませんもん、当時のことは。

宮本：今おっしゃられたけれど、いろんな経験をしてこられた堤さんが、今同じように新しい別事業をもう一つとなると、いろんなことを考えられますか。

堤：やるのであればかなり計画を立てて、資金も計画も立ててするんでしょうけど。当時は自分でも思うんですが、何の根拠もなく自身持ってやっていましたね。その当時の自分に、正直どこに根拠があるのか聞いてみたいです。

宮本：でもご家族と一緒に走ってこられたんですよね…。

堤：そうですね、喧嘩もだいぶしましたね。皿が飛び交っていましたよ、家族で事業すると難しいですよ、すぐ喧嘩になっちゃうんで。

宮本：うっそ～！でもそうですね。保育園事業は堤さん、お父様は介護の方とかある程度のすみ分けがあつたんですか？

堤：そうですね、本当お恥ずかしい話、当時のやっぱり3年間ぐらいは、私と父はうちの母がろう学校での勤務を続けたので、2人とも扶養に入っていました。養ってもらっていた感じでしばらくは。

宮本：資金繰りがねって、ちょっと思ったりしたんですよね。

堤：今考えたら怖いですよ、本当。

宮本：でもちゃんと回ってきたんですよね。

堤：まあ～何とか運もよかったですね。もうこの大村の可能性はすごいですよ。富の原地

区は特にやっぱ人口が増えてきたんで、その辺は後押しっていうか追い風はかなり運が良かったなと思っています。

宮本：なるほど、大村として今まだ人口がずっと増加し続けてるじゃないですか。そのポテンシャルっていうのは大事にした方がいいんですよね。

堤：そうですね本当。まあ私も東京行ったときやっぱり規模が違うなとチャンス。ただそこでするのが幸せとかお金の稼ぐ量とかではなく、何か事業をやりたいことやるって大村って人口が増えていくっていうこの過程っていうのは、今から夢を叶える、何かの質量が増えるということと一緒に思うんで、本当人口が減っていてどうしようっていうところよりもチャンスっていうのはある種パワーがあるような気がするんで、私商売の方は、結構まだ入ってこられるかなっていう気はします、これから。

宮本：いやもう今度はセンターに新しくこういったことで大村でやりたいです、っていう方々がいらっしゃったら、まず堤さんに打合せするように今のお話を…

堤：失敗談はいくらでもできます(笑)

宮本：本当に今のお話ですごく貴重だなんて思いました。

MC：本当ですね、そのご縁っていうのもすごく感じましたけれども、ただやはり家族の結束っていうのも一つ大事なのかなというふうに感じました。

宮本：皿は飛んでも(笑)

堤：皿は飛んでも、家族は大事。

MC：私の方からもちょっとお尋ねしたいんですけど、何がきっかけで堤様が大村市産業支援センターの方に行かれたんですか？ によろしいですか？ きっかけっていう経緯を聞いてよろしいですか？